

ライティング後然草

エグゼクティブ・アドバイザー 林 健一

第7回 鬼刈りではなく、「おいて」刈り

「鬼滅の刃」がものすごい人気である。吾峠呼世晴(ごとうげ・こよはる)作のコミックは 22 巻までの累計発行部数が 2020 年 12 月時点で 1 億 2 千万部を突破し、同年 12 月 4 日に発売された最終 23 巻も初版を 395 万部発行したそうである。10 月 16 日に公開された劇場版アニメ「無限列車編」も絶好調で、公開後 11 週目までの興行収入が 324 億 7,000 万円に達した。この金額は従来歴代 1 位であった「千と千尋の神隠し」の 316 億 8,000 万円を抜くものである。

漫画やアニメに興味のない方のためにご説明すると、これは大正時代を舞台とした作品である。主人公は竈門炭治郎(かまど・たんじろう)という少年で、早くに父を亡くした彼は 6 人きょうだいの長男として炭焼きで家族を支えてきた。しかし、町で炭を売るために炭治郎が家を留守にした日に一家は鬼に襲われてしまう。ただ一人、長女の禰豆子(ねずこ)はかろうじて生き残ったものの、傷口から鬼の血が入ったため、鬼と化してしまう。炭治郎は禰豆子を人間に戻すため、鬼殺隊の剣士となって鬼と戦うというのがあらすじである。

この作品の中で、鬼殺隊は人々から「鬼刈り様」と呼ばれ、彼らの活動は「鬼刈り」と称される。これをもじったものと思われるが、最近、製薬業界で「おいて刈り」という言葉を見聞きするようになった。この言葉を使うのは医薬品の承認申請資料や医学論文の作成に関与する方々で、原案の執筆者が作成した文章から「～において」や「～における」という表現を削除するというのがその趣意である。私自身も、わかりやすい文章の書き方を解説する講義では、これらの使用を避けるように主張してきただけに、この趣意には強く賛同する。

「～において」や「～における」の使用を避けるべきと考える理由は、これらが文の構造を破綻させる恐れがあるためである。日本語は膠着語と呼ばれる言語に属し、言葉と言葉の関係を助詞や助動詞を使うことによって示す(本多勝一. 日本語の作文技術. 朝日新聞社)。特に重要なのは助詞で、日本語では助詞が文の構造を支配する。たとえば、「申請者は照会事項に対する回答書を規制当局に提出する」と書けば、提出するという行為を実行する主体が申請者であり、行為の対象物が回答書で、行為の向かう先が規制当局であることを「は」「を」「に」という助詞がそれぞれ示すことになる。このように重要な助詞を「～において」や「～における」は消去することがあるのである。

文例を示して具体的に説明する。以下の文例のうち、皆さんにとってわかりやすいのはどちらであろうか。

文例 1:

無増悪生存期間において被験薬群は対照薬群と比較して有意な延長を示した。

文例 2:

被験薬群の無増悪生存期間は対照薬群(の無増悪生存期間)よりも有意に長かった。

我々が文章を書くのは、誰かに情報を伝えるためである。そして、多くの場合、伝えたい情報の骨格は「何はどうであった」や「誰が(は)何をどうした」といった形をとる。この骨格を明確に示すことがわかりやすい文章を書くためのポイントである。上記の文例の場合、「被験薬群の無増悪生存期間は有意に長かった」というのが情報の骨格であり、この骨格が文例 2 ではきちんと示されている。一方、文例 1 では「無増悪生存期間において」という表現を用いたことにより、助詞「は」が消失している。このため、大多数の読者にとっては文例 2 のほうがわかりやすいのである。

では、こうした問題があるにもかかわらず、なぜ申請資料や医学論文では「～において」や「～における」が多用されるのであろうか。これまでの経験から、主な理由は二つあると考える。一つの理由は、これらが格調の高い表現のように感じられるためである。要するに、かっこいい表現なのである。もう一つの理由は、言葉と言葉の関係を吟味することなく、文章をすらすらと書くことができるためである。たとえば、「乳がん患者における臨床試験」と書けば、「乳がん患者」と「臨床試験」との関係を吟味する必要はないが、「～における」を使わないようにすると、これらの関係を吟味する必要が生じる。したがって、時間をかけて考えた後に「乳がん患者を対象とした臨床試験」などと書かなければならない。すなわち、執筆者にとって「～において」や「～における」は便利な表現なのである。

しかし、情報を伝える上で重要なのは格調の高い表現を用いることではない。それどころか、格調の高い表現を用いれば、むしろ情報は伝わりにくくなる。なぜなら、格調の高い表現は難しい表現になりやすいからである。重要なのは、伝えたい情報が確実に伝わるかどうかである。そうであれば、申請資料や論文を書く際には、平易な表現を使うように心がけるほうがよい。また、言葉と言葉の関係を吟味せずに文章を書き進めれば、執筆者の負担は小さくなるが、そうすると、今度は読者の負担が大きくなる。なぜなら、言葉と言葉の関係が曖昧なため、文章の意味を解釈するのに時間がかかるからである。

ここで、私の講義を聴講して下さった方から実際にお聞きした話を紹介する。この方は製薬企業で申請資料の作成を統括しており、私の講義を聴講した後、申請資料の執筆担当者に「～において」と「～における」の使用禁止を通達したそうである。当然であるが、そのような

通達をすれば、現場からは不満の声が上がる。しかし、この方はそうした不満を押し切って作業を進めた。その結果、完成した申請資料を読んだ研究開発本部長から呼ばれ、こう言われたそうである。「以前のものと比べて申請資料が格段にわかりやすくなっている。いったい、どんなことをしたのか。ぜひ教えてほしい。」

たしかに、「～において」や「～における」を使わずに文章を書こうとすると、言葉と言葉を安易につなぐことができなくなり、執筆者にとってはつらい作業となる。しかし、苦勞して書いた文章は、読者にとってわかりやすいものとなる。したがって、執筆者が解釈してほしいと思った通りに読者が解釈してくれるようになる。情報を伝えたいと思って文章を書くものにとって、これ以上の快感はないであろう。そうであれば、文章を書く苦勞など、何ほどのものでもない。

こうした苦勞は読者にも伝わるものである。なぜなら、読者の多くは自分自身で文章を書いた経験を持っているからである。そうした読者の中には、「～において」や「～における」を使わないことのつらさを知っている人がいるかもしれない。そうした人は、わかりやすい文章に接したときにきっとこう言ってくれるであろう。

「おいて」を使わずよく堪えた。後は任せろ。